

寅さん歩 その 15

江戸・東京(23 区)の百名山-12

平野 武宏



深田久弥提唱の「日本百名山」は山男や山ガールが入門書や目標としています。昔の友人もはまっていましたが、山の上があまり好きでない寅次郎は興味を示さず、ウォーキングの世界に入りました。NHKBS 放映「グレートトラバース-2」で「日本百名山」踏破後、「日本二百名山」を一筆書きで、交通機関を使わず、自分の足のみで踏破しているプロアドベンチャーレーサーの姿を知りました。(平成 28 年 9 月 22 日放映終了) 4 年前に東京に移り住み、都内を歩き回っている寅次郎、図書館で「江戸・東京百名山を行く(手島宗太郎著)」を見つけ、アイデアをいただきました。「山の日」祝日実施記念として踏破に挑戦したい気持ちになりました。

著者手島氏の選んだ「百名山」は現存しない山や富士塚も含まれていますが、最高峰は新宿区 44.6m の箱根山と知り、自分の足だけなどと言わずに、東京都シルバーパスも活用し、楽しみながら、踏破する新シリーズとします。位置関係が分かるように、数の多い 23 区順に紹介します。今回は五番目に多い世田谷区の 6 山で、寅次郎、全部初めて訪れる山です。数字は踏破した数の累計です。最寄り駅は代表例で、都営はシルバーパス使用可です。

[世田谷区]

71. 騎兵山

池尻 4 丁目 8 辺り

最寄駅 東急田園都市線 池尻大橋駅

駅北口から「目黒川緑道」を歩いて「東仲橋」を右折、すぐ右の道を上り、階段(写真下左)を上った辺りが池尻 4 丁目 8 です。左手に「馬神の碑」があり、蹄鉄が供えられています。この高台の「騎兵山」は軍用地で「騎兵第一聯隊」ゆかりの地とのこと。筑波大付属中・高のグラウンドの脇に「騎兵

山遺跡」の説明板があり「騎兵山遺跡は武蔵野台との東部、烏山川と北沢川が合流して目黒川となる地点の台地に立地する遺跡で、名の由来は明治 24 年（1891 年）騎兵第一大隊（後に聯隊）が置かれたことに、ちなんでつけられました。遺跡の大きさは南北約 500m、東西約 230m で、面積は約 10 万㎡と区内でも最大級の遺跡のひとつです。平成 17 年（2005 年）の発掘調査で旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古代の住居跡や騎兵第一聯隊に関する建物跡などが見つかりました」と記載。井の頭線駒場東大前駅からも来られます。



72. 坊城山

三宿 2 丁目 11、12 辺り

最寄駅 東急田園都市線 池尻大橋駅

目黒川緑道に戻り、さらに進むと三宿 2 丁目 15 の電柱表示を右折、坂（写真下左）を上がると三宿 2 丁目 12 です。写真下右は頂上部で先は坂となり、下りです。住宅街で今や山の面影は全くありません。



73. 多聞山

三宿 2 丁目 三宿神社裏手一帯

最寄駅 東急田園都市線 池尻大橋駅

目黒川緑道に戻り、先に進むと、幼稚園の隣に明治維新後の一村一社で廃寺になった「多聞寺」の寺地に創建された「三宿神社」の鳥居が見えます。裏手一帯に森が残されていました。町全体は烏山川が削った谷の斜面に位置し、「水の宿る地」という「水宿」が転じて「三宿」になった言われます。



三宿神社の裏手の多聞山

74. 下山

瀬田 4 丁目 8 日産厚生会玉川病院一帯

最寄駅 東急田園都市線 二子玉川駅

駅西口から二子玉川商店街通り（大山道）を行き、「治大夫橋」を過ぎ、「身延山関東別院」の手前の道を左折、直進すると「日産厚生会 玉川病院」の裏手の入り口の看板がありました。上まで上るよりわかりやすいです。縄文以前の先土器時代の石器や古墳時代の土器が発掘された「下山遺跡」とのこと。写真下右の「玉川病院」看板の右手にある石柱には「下山遺跡」と記載。



75. 将監山

瀬田 4 丁目 16 聖アントニオ神学院内
最寄駅 東急田園都市線 二子玉川駅

「下山」に行くために左折した「身延山関東別院」まで戻り、そのまま坂を上る（写真下左）と右手が「将監山」です。
（写真下右）中世この辺りに住んでいた「柳田将監」にちなみ小高い台地の一帯を「将監山」と名付けたとのこと。
柳田将監については「笛師」との伝承があるが、詳細は不明とのこと。



76. 殿山

大蔵 5、6 丁目 永安寺、第六天神社、東宝ビルト一带
最寄駅 東急田園都市線 二子玉川駅からバス利用

「永安寺」で下車、右手に入ると「永安寺」があります。室町時代に鎌倉大蔵谷に創建の寺ですが、廃寺になり、再興を願い、武蔵国中丸郷大蔵村が同じ地名であることから延徳 2 年（1490 年）この地に移されたとのこと。裏山は住宅や東名道路の建設で寸断されています。写真下左は永安寺、右は永安寺左脇の坂。



〔こぼれ話〕 静嘉堂文庫美術館

最寄駅 東急田園都市線 二子玉川駅からバス利用

「静嘉堂美術館」で下車。「寅さん歩」で「三菱の創始者 岩崎彌太郎とその一族」の桁外れの持ち物を拝見して来ましたが、ここも彌太郎の弟で三菱第二代社長の岩崎彌之助（1851 年～1908 年）と第四代社長の岩崎小彌太（1829 年～1945 年）の父子二代によって蒐集された、**国宝 7 点、重要文化財 83 件**を含む、およそ 20 万冊の和漢の古書籍と 6,500 件の東洋古美術を収蔵しており、東洋文化の一大宝庫として国内に高く評価されています。寅次郎、初めて訪れました。美術館は年 4 回の企画展時のみ、公開されます。平成 28 年（2016 年）10 月 8 日～12 月 11 日までは「漆芸名品展」が開催されていました。収蔵の国宝や重文はビデ

才で紹介されていました。正門から木立の中、坂を上ると、写真下右に出ます。茶の建物が明治 25 年（1892 年）創設の「静嘉堂文庫」で、左手の建物が文庫創設百年記念事業で建設され、平成 4 年（1992 年）オープンの「静嘉堂美術館」です。



静嘉堂美術館



静嘉堂文庫

美術館の左手敷地の奥には父 彌之助の 3 回忌に小彌太が建てた「岩崎家玉川廟」（写真下左）があります。設計は明治の洋館建築に大きな足跡残した、あのジョサイア・コンドルです。



「静嘉」とは中国古典「詩経」の大雅・既醉編の「籩豆静嘉（へんとう せいか）」の句を出典とし、彌之助の堂号として用いていました。

「祖先の霊前への供物が立派に整うこと」を意味するそうです。

明治に入って始まった日本文化財や美術品の海外流出を食い止めてくれた「岩崎家」の財力を見直しました。入場料は1,000円、美術品には疎い寅次郎ですが、～うるしで伝える美の世界～ 重文 謎のうるしの屏風の10年ぶりの公開！に出会え、満足でした。

次回は江戸・東京（23区）の百名山-13 です。

平野 寅次郎 拝